



JRA

THE CAPELLA STAKES

第17回 カペラステークス (GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 38,000,000円 15,000,000円 9,500,000円 5,700,000円 3,800,000円
付加賞 560,000円 160,000円 80,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

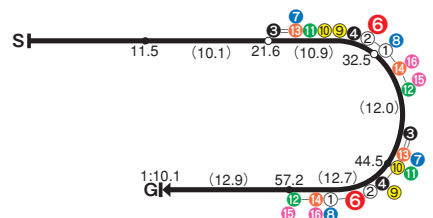
3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳56^{kg}・4歳以上57^{kg}、牝馬2^{kg}減、2023.12.9以降GⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬3^{kg}増、牝馬限定GⅠ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2^{kg}増、牝馬限定GⅡ競走またはGⅢ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1^{kg}増、2023.12.8以前のGⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2^{kg}増、牝馬限定GⅠ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1^{kg}増(ただし2歳時の成績を除く)

2024.12.8 中山 晴・良 ダ1200m (国際) (確定)

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り 600m (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑥	ガビースシスター	牝	3	54	吉田隼人	1:10.1	7-7	36.3	460(±0)	3.3 ^①	森 一誠(美浦)	105
2	⑨	クロジシジョー	牡	5	57	浜中 俊	クビ	10-9	35.9	452(-6)	15.1 ^⑦	岡田稲男(栗東)	108
3	⑪	ジレトール	牡	5	57	大野拓弥	クビ	9-9	36.1	476(-4)	29.1 ^⑨	松永幹夫(栗東)	107
4	⑭	サンライズアムール	牡	5	57	斎藤 新	½	3-3	37.3	516(+2)	6.9 ^④	小林真也(栗東)	106
5	⑩	エティエンヌ	騾	5	57	津村明秀	アタマ	11-11	36.0	518(-4)	109.3 ^⑩	吉田直弘(栗東)	
6	⑪	チカッパ	牡	3	58	横山典弘	ハナ	12-11	35.7	500(+3)	5.1 ^②	中竹和也(栗東)	
7	⑧	インビンシブルババ	牡	3	55	三浦聖成	1	5-5	37.2	530(-6)	6.9 ^⑤	伊藤大士(美浦)	
8	①	ナムラフランク	牡	5	57	菱田裕二	アタマ	5-5	37.1	490(-12)	76.0 ^⑪	鈴木孝志(栗東)	
9	②	インユアパレス	牡	3	56	横山武史	¾	7-8	36.7	482(+4)	6.0 ^③	須貝尚介(栗東)	
10	⑦	クインズメリッサ	牝	6	55	藤懸貴志	クビ	13-13	35.8	488(-6)	50.7 ^⑫	宮本 博(栗東)	
11	⑬	イスラアネーロ	牡	5	57	川又賢治	2	3-3	37.9	452(-2)	86.8 ^⑪	吉村圭司(栗東)	
12	⑫	スズカコテキタイ	牡	5	57	岩田康誠	1½	13-13	36.4	500(+2)	16.3 ^⑧	奥村 武(美浦)	
13	⑮	ティエムトッキュウ	牡	6	58	田辺裕信	7	2-1	39.8	494(-19)	13.0 ^⑬	木原一良(栗東)	
14	⑭	チェイスザドリーム	牝	5	55	吉田 豊	3½	1-2	40.4	474(-6)	74.7 ^⑭	矢作芳人(栗東)	
15	③	リベイクフルシティ	騾	4	57	和田譲治	5	15-15	37.3	506(+1)	435.2 ^⑮	宗形竹見(大井)	
取消	⑤	エスカル	牡	3	56	横山和生						森 秀行(栗東)	

単勝⑥330円(1^{kg}) 複勝⑥170円(1^{kg}) ⑨350円(6^{kg}) ④520円(9^{kg}) 枠連③-⑤2,470円(13^{kg})
馬連⑥-⑨2,560円(11^{kg}) ワイド⑥-⑨990円(12^{kg}) ④-⑥1,700円(22^{kg}) ④-⑨2,580円(34^{kg})
馬単⑥-⑨3,860円(13^{kg}) 3連単④-⑥-⑨13,620円(52^{kg}) 3連単⑥-⑨-④52,750円(178^{kg})



通過タイム : 600m 800m 1000m
32.5 - 44.5 - 57.2 上り : 800m 600m
48.5 - 37.6

アラカルト

- ・吉田隼人騎手はカペラS初勝利。JRA重賞は24年初勝利、通算28勝目
- ・森一誠調教師はJRA重賞初勝利
- ・アポロキングダム産駒はJRA重賞通算4勝目
- ・3歳馬の勝利は22年リメイクに続く通算4回目
- ・牝馬の勝利は11年ケイアイガーベラ以来13年ぶり、通算2回目
- ・単勝330円は同式別における本競走の最低払戻金額
- ・エスカルは疾病(左前挫臼)のため出走取消
- ・非当選馬 1頭(スタータン)
- ・非抽選馬 4頭(オマツリオトコ、サーマルウインド、タイセイブレイズ、ハコダテブショウ)

ガビーズシスター Gabby's Sister

牝 栗毛 2021.2.28生
北海道新ひだか町 へいはた牧場生産
馬主・長島和彦氏 美浦・森一誠厩舎
馬名意味・テスコガビーより+お姉さん。テスコガビーのファミリーなので

アポロキングダムUSA Apollo Kingdom 栗毛 2003	Lemon Drop Kid 鹿毛 1996	Kingmambo
		Charming Lassie
	Bella Gatto 栗毛 1996	Storm Cat
		Winter Sparkle
アンジュデトワール 鹿毛 2012	スペシャルウィーク 黒鹿毛 1995	サンデーサイレンスUSA
		キャンペンガール
	エンゼルカロ 鹿毛 1997	スターオブコジーンUSA
		ヤマフノーザリー

5代までのインブリード：Northern Dancer S5×M5

INTERVIEW

弊旗芳典代表(へいはた牧場)

24年ぶりの重賞制覇、とても嬉しいです

牧場にとっては24年ぶりの中央重賞制覇となり、とても嬉しく思います。母馬が穏やかな性格のせいか仔も皆おとなしく、本馬も牧場時代は手がかからず病気もせず、順調に育ってくれました。デビュー前、当時管理された中野栄治元調教師からは高い評価をいただきました。もう少し長い距離もこなせるようになればと思いますが、とにかく無事にがんばってほしいです。



JRA

これまでの代表産駒は2013、14年の最優秀障害馬アポロマーベリック。平地競走の目ぼしい活躍馬は見当たらなかったアポロキングダム産駒だが、祖母エンゼルカロはホッカイドウ競馬所属馬として函館3歳Sに優勝、4代母のテスコエンゼルは名牝テスコガビーの全妹にあたる。そんな血統背景を持つ本馬は、24年3月に定年を迎えた中野栄治調教師に最後の勝利を、この日はバトンを受け継いだ森一誠調教師に初のタイトル、さらに落馬事故を乗り越えて戦列に戻ってきた吉田騎手に復帰後初の重賞制覇を贈った。ダート戦はこれで6戦5勝2着1回。砂の短距離路線に強力な新星が誕生した。

父アポロキングダムUSA

中央11戦2勝。05年輸入、08年から供用、22年用途変更
〔代表産駒〕ガビーズシスター(本馬)、アポロマーベリック(中山大障害J・G₁、中山グランドジャンプJ・G₁、東京ジャンプS J・G_{III}、中山大障害J・G₁2着)、アポロビビ(ジャン્યアリーS^o_P、千葉S^o_P、京葉S・L2着)、アポロスターズ(カナナS^o_P)、シャインカメリア(ダリア賞^o_P2着)

母アンジュデトワール

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央11戦0勝、地方11戦1勝(18 牝父アポロソニックUSA)
アポロルタ(19 牝父アポロキングダムUSA)中央22戦1勝 ㊟
アポロサンデス(20 牝父アポロソニックUSA)
ガビーズシスター 本馬(21 牝父アポロキングダムUSA)中央8戦5勝(カベラS^o_{III}、外房S、桑園特別)獲得総賞金88,855,000円
ガビーズブラザー(22 牝父アポロケンタッキーUSA)㊟
(23 牝父アポロケンタッキーUSA)
(24 不受胎)

祖母エンゼルカロ

北海道門別町 白井牧場生産 中央2勝(函館3歳S^o_{III}、ラベンダー賞^o_P、フアンタジーS^o_{III}3着、札幌3歳S^o_{III}3着)、地方2勝(栄冠賞)、19年用途変更コスモスベシャリー(03 牝父スペシャルウィーク)中央3勝(栗子特別)、障害0勝、地方0勝
ロングビクトリア(04 牝父タニノギムレット)不出走、タクルオウジ(サンライズC、黒潮盃2着)の母
フェアリーグリーン(05 牝父フサイチコンコルド)中央0勝、地方7勝
ペニアミーノ(06 驢父ムーンパラッドIRE)中央0勝、地方2勝
オフアニエル(07 牝父グラスワンダーUSA)中央0勝、地方2勝
グッドシーユー(08 牝父フジキセキ)中央0勝、地方15勝
アナンジュバス(09 牝父ディーブインパクト)中央3勝
アドマイヤカロ(11 牝父ゴールドアリュール)中央2勝
アンジュデトワール(12 前出)
バッハスビリッツ(17 牝父グランプリボス)中央0勝、地方3勝

曾祖母ヤマフノーザリー

北海道静内町 福岡敏氏生産 中央2勝。06年死亡
エンゼルカロ(97 前出)
マイネシャーナ(01 牝父スターオブコジーンUSA)中央2勝

砂の短距離路線に強力な新星が誕生

ダートのスプリント重賞・カペラスは3歳馬が中心勢力を形成。2、3勝クラスを連勝中のガビーズシスター、インユアパレスと、交流重賞2勝の実績を持ち、JBCスプリントでもハナ差の2着に追い込んだチカツパが、古馬勢を抑えて上位人気に支持された。なかでも頭ひとつ抜けた支持を集めた牝馬ガビーズシスターが、背負った期待に応えて快勝。連勝を3に伸ばし、飛躍への一歩を踏み出した。
連覇に挑むティエムトッキュウが外から勢いよく飛び出したものの、チェイスザドリームも譲らずに先手を主張。前年の1、2着馬が雁行して引つ張ったレースは、前半600mの通過が32秒に飛び込んだ。
これまでの代表産駒は2013、14年の最優秀障害馬アポロマーベリック。平地競走の目ぼしい活躍馬は見当たらなかったアポロキングダム産駒だが、祖母エンゼルカロはホッカイドウ競馬所属馬として函館3歳Sに優勝、4代母のテスコエンゼルは名牝テスコガビーの全妹にあたる。そんな血統背景を持つ本馬は、24年3月に定年を迎えた中野栄治調教師に最後の勝利を、この日はバトンを受け継いだ森一誠調教師に初のタイトル、さらに落馬事故を乗り越えて戦列に戻ってきた吉田騎手に復帰後初の重賞制覇を贈った。ダート戦はこれで6戦5勝2着1回。砂の短距離路線に強力な新星が誕生した。